

# 平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	立地適正化計画策定事業				会計	款	項目	大	小
					01	08	04	01	02
07									77
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）			主管課	都市計画課			
施策	1-3	個性ある公共空間・歴史環境の形成と保全			主管課長	武田 淳			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市街化区域	意図	立地適正化計画を策定し、都市機能及び居住区域の誘導を行う。
事業内容	現在、人口は増加しているが、将来においては人口減少・高齢化等により地域の活力が低下していくことが予想されることから、医療、福祉、商業等の都市機能や居住に係る適正な誘導方針や誘導区域、その実現に向けた施策方針を示す立地適正化計画を策定する。			
事業開始から現在までの状況変化	現状の把握と分析及び課題の整理を行い、立地適正化に関する基本方針を検討する。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
①							
指標で表すことができない定性的な成果	補助金が受けやすくなることや補助率の嵩上げにより財政運営の負担軽減に寄与できる。					目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）	
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度			平成27年度事業 ・上位・関連計画の整理 ・都市分析の実施 ・評価指標の設定 ・課題の整理 ・立地の適正化に関する基本的な方針の検討	
事務事業の総計(a=b+c)			10,780,800				
事業費(b)(円)			3,250,800				
うち一般財源			1,750,800				
職員給与費(c)(円)			7,530,000				
人役・職員(人)			1.00				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	新規事務事業により記載なし。	③取組の課題	全国でも計画を策定している事例も少なく国が作成している手引きやハンドブックを基に計画を作成する必要がある。
②今年度(H27)に実施した取組	新規事務事業により記載なし。	④今後の改善計画	現在、計画を作成している隣接市と情報を共有しながら、平成28年度計画策定に向け取り組んでいく。